

みんなのルール

ここが
ポイント

歩くマナーも身に付ける

生活に必要な習慣を身に付けることも生活科のねらいの一つです。「廊下歩行指導」というと、学級活動で行うことのように思われますが、1年生の生活科の探検学習で身に付けることが可能です。子どもたちが本当に学びたいと思い、「静かに歩かないと他の学年や先生たちに迷惑をかけてしまう。」と思った時、自然に静かに歩けるのではないかでしょうか。

すると、学級活動で、「静かに歩きましょう。」と指導されても自分ごとになつていないうちより、自分ごとになっている生活科の学びの方がはるかに納得して身に付けていくことができるのです。そして、生活科で身に付けたマナーを、校外学習に出かけても生かしていくことができます。まさに一石二鳥といえます。

Active

指導の具体で言うと、「走らない」「大きい声で話をしない」が絶対です。これを例えれば「ぼくら〇〇探偵団」や「忍者」と設定し、だから「調べている姿を気付かれないようにそっと歩こう。」「ひつそり移動しよう」などとさりげなくマナーに結び付けるように仕組むと効果大です。時に、「探偵手帳」や「忍者バッヂ」などを身に付けると、更になりきり度が高まります。



ここが
ポイント

職員室への入室マナーも身に付ける

1年生が職員室に入るのは、大変緊張します。ですが、毎日お手紙を取りに行ったり、落とし物を尋ねに行ったり、保健の先生を探しに行ったりするなど、何かと入室する機会が巡ってきます。そのような時に困らないよう早めに入室マナーを身に付ける必要があります。

これも、学級活動で指導できることではあります、生活科と関連させて学校探検活動を通して身に付けることが可能です。

全員で職員室の中を見せてもらう時も、少人数で入る時も同じです。ドアをノックして、「失礼します。」「〇〇先生は、いらっしゃいますか。」とドアの所で立ち止まって一言話し、「どうぞ。」と言われたら入ります。挨拶の声は大きく、探検中の声は小さくします。出る時は「失礼しました。」と言います。この当たり前のようなやりとりを生活科で1年生から身に付けることができれば、この先、堂々と入室することができるようになります。

また、このルールは職員室だけに適用するものではありません。校長室、保健室、事務室、用務員室など部屋は全て同じです。

学校探検で調査活動に協力してもらった時、最後に、「ありがとうございました」も必要になります。

ここが
ポイント

入ってよい部屋といけない部屋がある！

学校探検をする時は、その目的によって見る部屋が少し違ってきます。部屋という部屋をオープンにし、そこから何かを感じ取らせます。人が働いている部屋を見せます。上級生が勉強している姿を見せます。

このように様々な目的があります。その中でも、今日は「ここはダメ。」、いつも「ここはダメ。」という部屋が存在します。その度に伝えることも大変なので、そのような時は部屋の表示に「信号」を付けます。

Active

「青」は入室OK、「赤」は入室禁止、「黄」は入室可能だが条件付きといった具合です。それがあれば子どもたちは「この前は赤だったけど今日は青だから、入ってみよう」と「青」を確認して入室します。

また、活動目的に応じて教師側で自然に入室制限をすることが便利です。



「わくわく」「どきどき」がなければ探検は楽しい活動になりません。教師側が環境を整え、子どもが主体的に活動できるように準備をしていきたいところです。